

知的財産政策 補講回

令和2年7月10日(金)

加藤 浩

katou.hiroshi@nihon-u.ac.jp

まとめ

第1部. 知的財産推進計画2020

第2部. 事例研究

ニュー・ノーマルに向けた知財戦略

- 今般の**新型コロナの世界的蔓延**は、経済社会システムの在り方自体に不可逆的な大きな変革をもたらすものである。
- その流行が沈静化して緊急時モードが解除された後においても、世界は「元に戻る」のではなく、経済社会の多くの側面で「新型コロナ以前」の常識が、「**ニュー・ノーマル(新たな日常)**」に取って代わられるであろう。
- その認識を広く共有することが肝要であると同時に、世界がニュー・ノーマルへと動く中で、我が国はむしろその**変革を先頭に立ってリード**すべく、官民を挙げて必要な取組みを加速すべきである。

ニュー・ノーマルに向けた知財戦略

- ニュー・ノーマルに向けた対応の**巧拙とスピード**が、新型コロナ後の世界における我が国の競争力に直結する。
- さらに、世界が混乱や分断に陥りやすい状況の中で、我が国には、競争力の確保にとどまらず、**世界の様々な立場をつなぎ連帯を形成**する上で主要な役割を果たすことが期待される。
- これができるのは今しかなく、今後2～3年の間に政府全体で**最優先事項**として集中的に取り組む必要がある。この機を逃せば、コロナ後のニュー・ノーマルにおける世界の中で、我が国は致命的に後れをとることになるであろう。

① 社会全体の DX の加速

- 新型コロナが沈静化した後、地域の活力再生を図る取組が進められると考えられるが、社会全体でリモート化・デジタル化が進むことにより**地理的距離を超えたコミュニケーション**や**コラボレーション**が行いやすくなるため、**ニュー・ノーマル**は**地方にメリット**をもたらす側面もある。
- 地域の中核を担ってきた企業に対しては、この危機を乗り越えるため当面は資金面の対策等が必要であるが、**ニュー・ノーマル**の下で**地域における新たな価値**の創出を牽引していくことが期待され、それをどのように支援していくかも重要な検討課題である。

②文化産業に対する支援の在り方

- 文化・芸術・エンターテインメント等は、人々が苦しい状況に置かれた時に「心の拠り所」あるいは「生きる力」を与えてくれるものであり、今回のような危機の時やそこから立ち上がろうとする時にこそ必要なものである。文化芸術の灯を消してはならない。
- 既に成熟経済に至った我が国が「価値デザイン社会」の未来像を描く中で、将来の基幹産業として期待されるのは、「無形資産」を中核とした価値を創出する産業である。
- コンテンツや食文化に関連する産業など文化産業群はその典型であり、ニュー・ノーマルにおいても「日本の魅力」の源泉として、新たなCJ戦略・インバウンド戦略の中核的要素を担うことが期待される。

③知的財産の保護と利用のバランス

- 2003年の知的財産基本法制定以来しばらくの間は、知的財産の保護にフォーカスした知財戦略が進められてきたが、近年は、排他的独占権による知財保護重視から、**知財の保護と利用のバランス重視**へ転換する流れとなってきた。この方向性は、コロナ危機とそれに続くニュー・ノーマルへの移行に対して**整合的**であると考えられる。
- 例えば、海外では、新型コロナに対抗するワクチンや治療薬の特許に関して、**強制実施権等により、特許権者の権利を制限**して利用しやすくしようとする動きがあると報じられている。一方で、先進国の中には、研究開発に対するインセンティブを確保する観点から、**強制実施権の発動に否定的な意見**も多い。

③知的財産の保護と利用のバランス

- こうした中、知的財産は、ワクチンや治療法を開発するためのインセンティブにおける中心的な役割を果たすとの WIPO 事務局長の声明や、新型コロナウイルスの治療薬やワクチンが開発された後の利用促進に向けた特許権プール構築に向けた国際的な取組み等が見られる。
- さらには、先述した権利者による自発的な特許無償開放のような動きは国内外において民間ベースで今後も進むと考えられる。
- こうした新型コロナに起因する情勢変化も踏まえ、知的財産の保護と利用のバランスの在り方を改めて吟味し、我が国の知財戦略に適切に反映させていくことが肝要である。

これからの知財戦略と「知的財産推進計画2020」

価値デザイン社会（2018.6知的財産戦略ビジョン）

経済的価値にとどまらない多様な価値が包摂され、そこで多様な個性が多面的能力をフルに発揮しながら、「日本の特徴」をもうまく活用し、様々な新しい価値を作って発信し、世界の共感を得る社会

Society 5.0（2016.1 第5期科学技術基本計画）

サイバー空間とフィジカル空間を高度に融合させたシステムにより経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会



新型コロナ → リモート化、オンライン化、行動変容

知的財産推進計画2019

3
つ
の
柱

脱平均
融合
共感

知的財産推進計画2020

第2章

デジタルトランスフォーメーションの加速

無形資産からの価値創出（文化産業等の支援）

知的財産の保護と利用のバランス

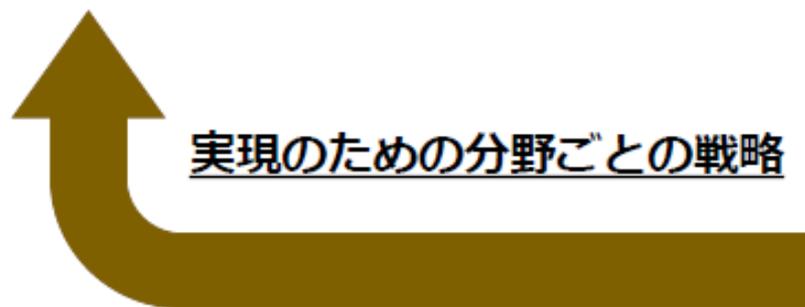
第3章 イノベーションエコシステム

第4章 クールジャパン戦略

第5章 コンテンツ・クリエイション・エコシステム

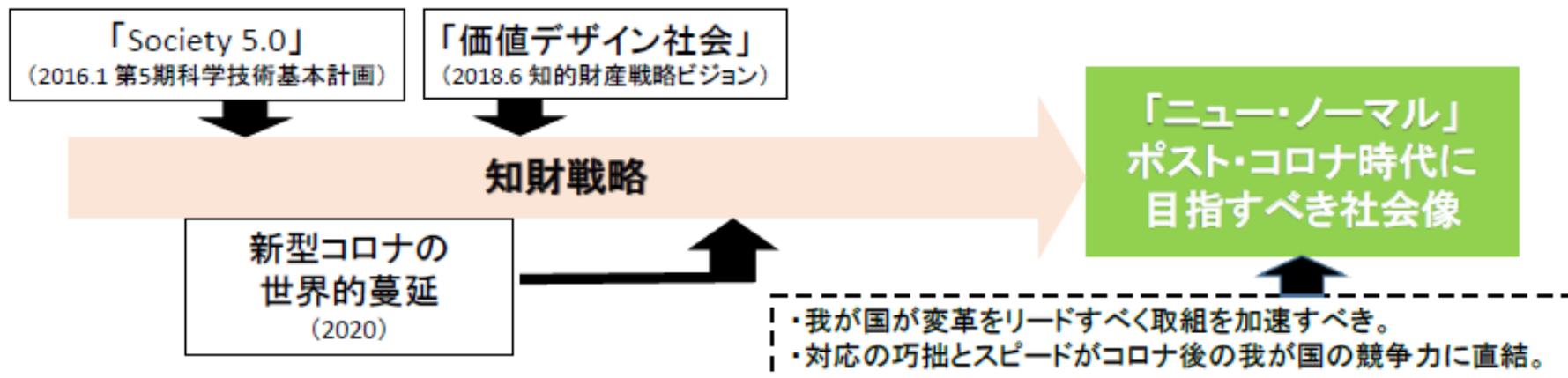
ニュー・ノーマル（新たな日常）

実現のための分野ごとの戦略



2. 「ニュー・ノーマル」と知財戦略

(1) 基本認識



※コロナ対応の様々な技術実装、ルール変更等を「実証実験」として見立て、結果を評価し、将来の制度設計等に結びつける。

(2) 新型コロナウイルス感染拡大による影響と社会の変化

①文化産業等に対する影響と対策

- ・**危機的状況**に直面(仕事の大幅な減少・喪失)
→**緊急経済対策**: 当面の事業継続・雇用継続、収束後の反転攻勢
- ・**オンライン**を活用した**適応**の取組(ライブ配信等)
- ・**ベンチャー企業**、**地域中核企業**等にも深刻な影響

③協働・共創・共助の動き

- ・緊急事態に対する**オープンイノベーション**の必要性
- ・感染症対策サイトの**オープンソース**による構築
- ・企業・大学等によるコロナ対策**特許の無償開放**
- ・クラウドファンディング等による**共助**の動き

②リモート化・デジタル化及びデータ活用の急加速

- ・**テレワーク**、**ウェブ会議**、**オンライン授業**等の拡大
→学生等への著作物の送信に関する問題を早期に解決
- ・**オンライン診療**の拡充、**ヘルスデータ**・**位置情報データ**の利活用
- ・急速に拡大するニーズに応える**オンライン環境**の整備が未だ**不十分**

④人々の行動変容

- ・**リアルからオンライン**へのシフト、リアルに対する強い制約
- ・緊急モード解除後も**行動や環境は元に戻らず**、より不安定な時代へ
- ・**世界の人々**の消費、観光、娯楽等の**行動パターン変容**の可能性
- ・**日本人**の行動、感性等が世界から**再評価**される可能性